

令和元年度 環境に関するインターネット調査（抜粋）

I 調査の概要

1 調査の趣旨

愛知県の環境関係の計画の策定、施策立案、進捗管理等の参考とするため、環境に関する県民の意識調査を実施する。

2 調査対象

愛知県内に居住する 18 才以上の男女 500 人(受託者のアンケートモニター)

3 調査受託者

株式会社ネオマーケティング

4 調査期間

令和元年 11 月 21 日～22 日

5 調査方法

インターネット

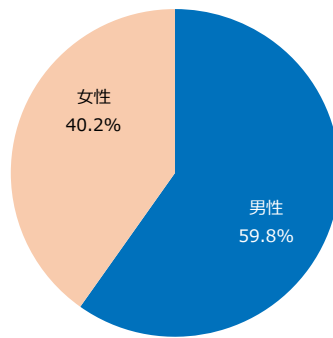
6 回答者数

500 人

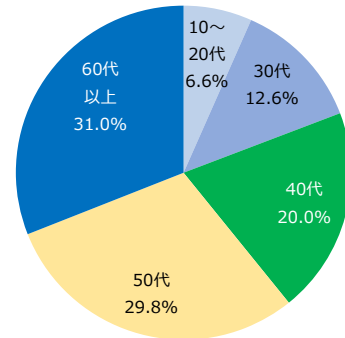
7 調査回答者の属性

		n	%
全体		500	100
性別	男性	299	59.8
	女性	201	40.2
年代別	18～29歳	33	6.6
	30～39歳	63	12.6
	40～49歳	100	20.0
	50～59歳	149	29.8
	60～64歳	64	12.8
	65歳以上	91	18.2

性別

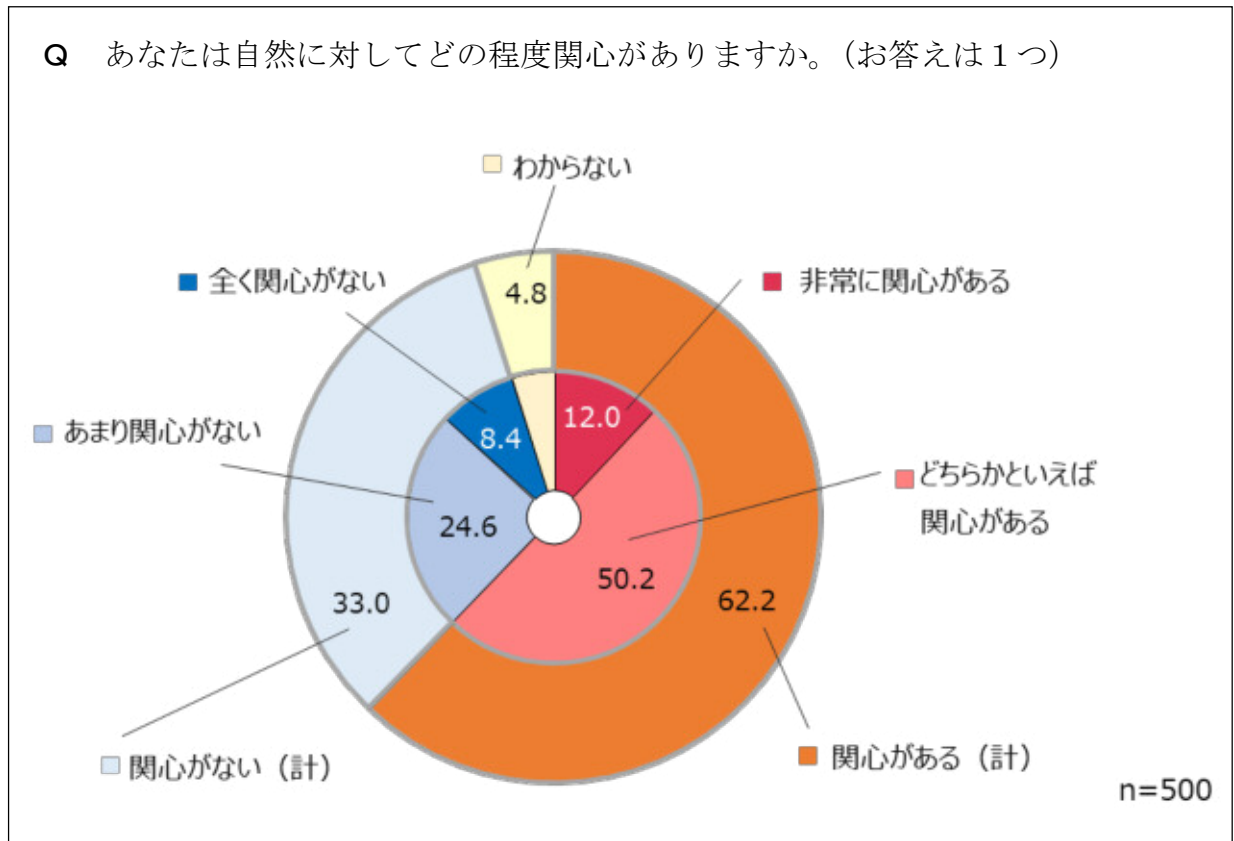


年代



Ⅱ 生物多様性について【調査結果】

(1) 自然への関心度

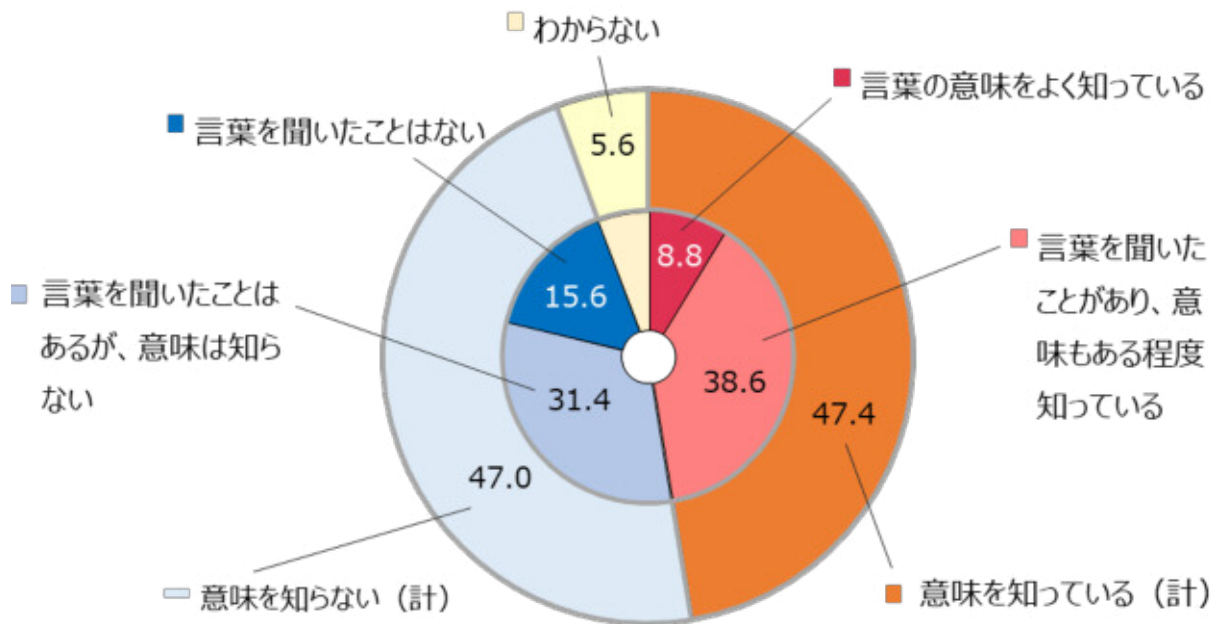


自然への関心度について、「非常に関心がある」(12.0%)と「どちらかといえば関心がある」(50.2%)を合わせた“関心がある”と答えた人の割合が62.2%となっている。

一方で、「あまり関心がない」(24.6%)と「全く関心がない」(8.4%)を合わせた“関心がない”と答えた人の割合は33.0%となっている。

(2) 生物多様性の認知状況

Q 私たちは、「生物多様性」から多くの恵みを受けて生活しています。あなたは、「生物多様性」という言葉を、どの程度知っていますか。(お答えは1つ)



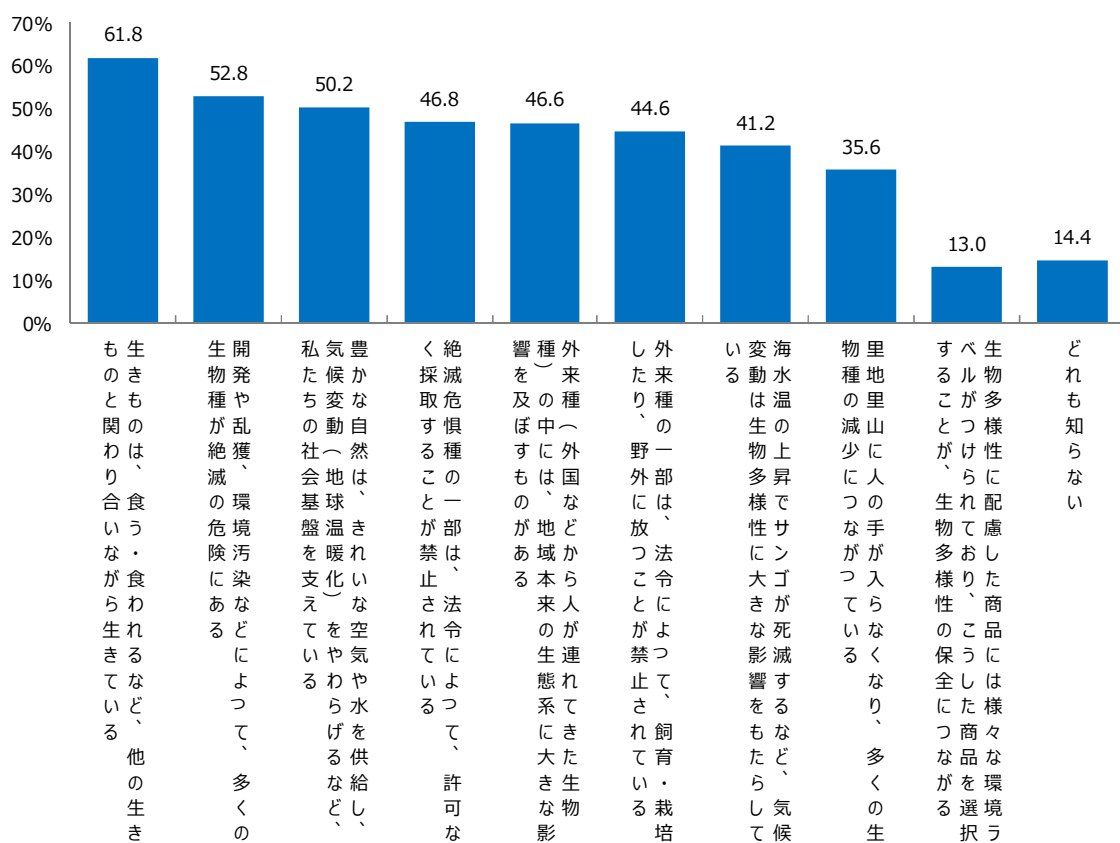
n=500

生物多様性の認知度について、「言葉の意味をよく知っている」(8.8%)と「言葉を聞いたことがあり、意味もある程度知っている」(38.6%)を合わせた“意味を知っている”と答えた人の割合が47.4%となっている。

一方で、「言葉を聞いたことはあるが、意味は知らない」(31.4%)と「言葉を聞いたことはない」(15.6%)を合わせた“意味を知らない”と答えた人の割合は47.0%となっている。

(3) 生物多様性の理解度

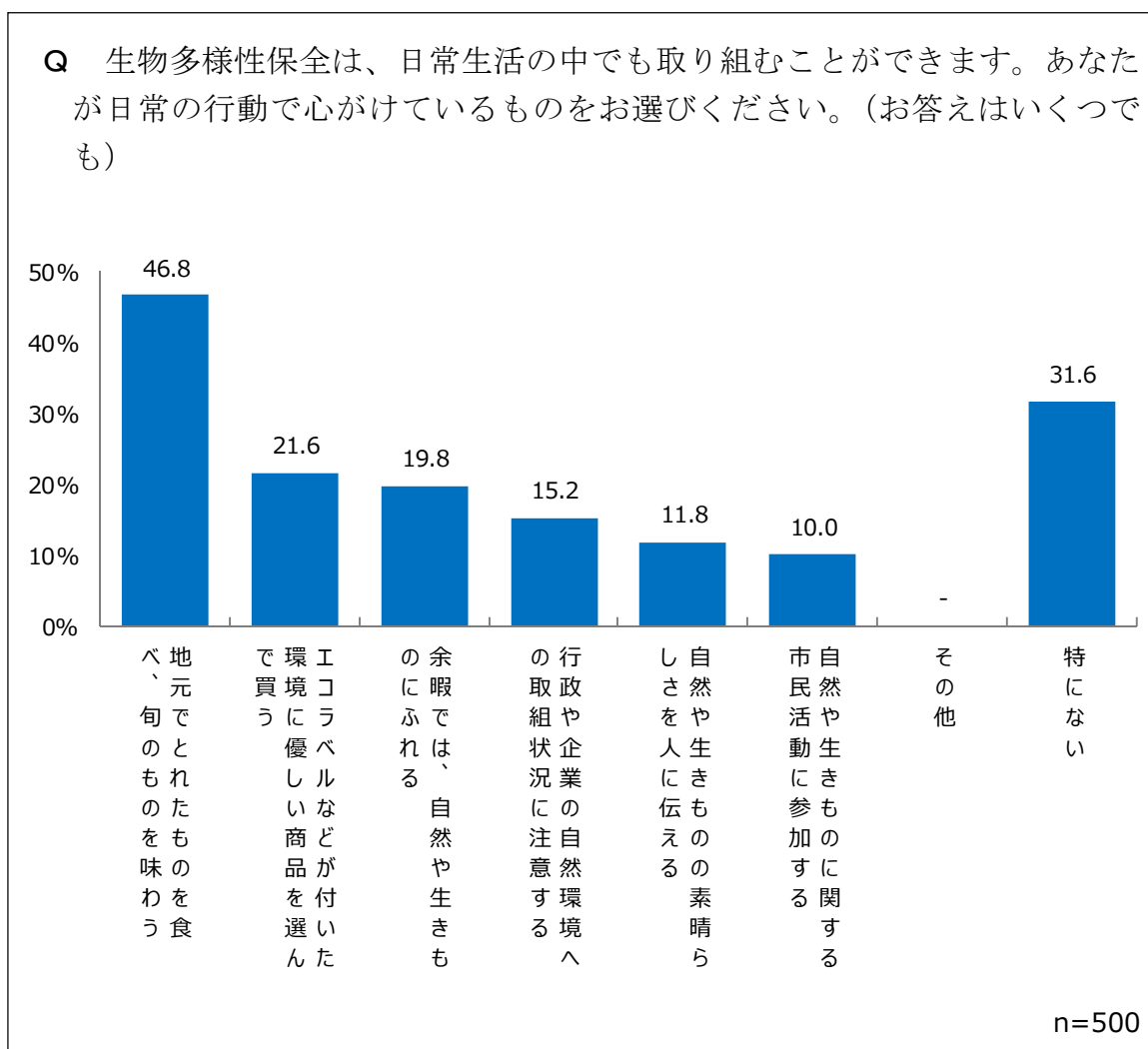
Q 生物多様性に関することで、あなたが知っているものをお選びください。
(お答えはいくつでも)



n=500

生物多様性の理解度について、「生きものは、食う・食われるなど、他の生きものに関わり合いながら生きている」と答えた人の割合が 61.8%と最も高く、続いて「開発や乱獲、環境汚染などによって、多くの生物種が絶滅の危険にある」(52.8%)、「豊かな自然は、きれいな空気や水を供給し、気候変動（地球温暖化）をやわらげるなど、私たちの社会基盤を支えている」(50.2%)の順となっている。

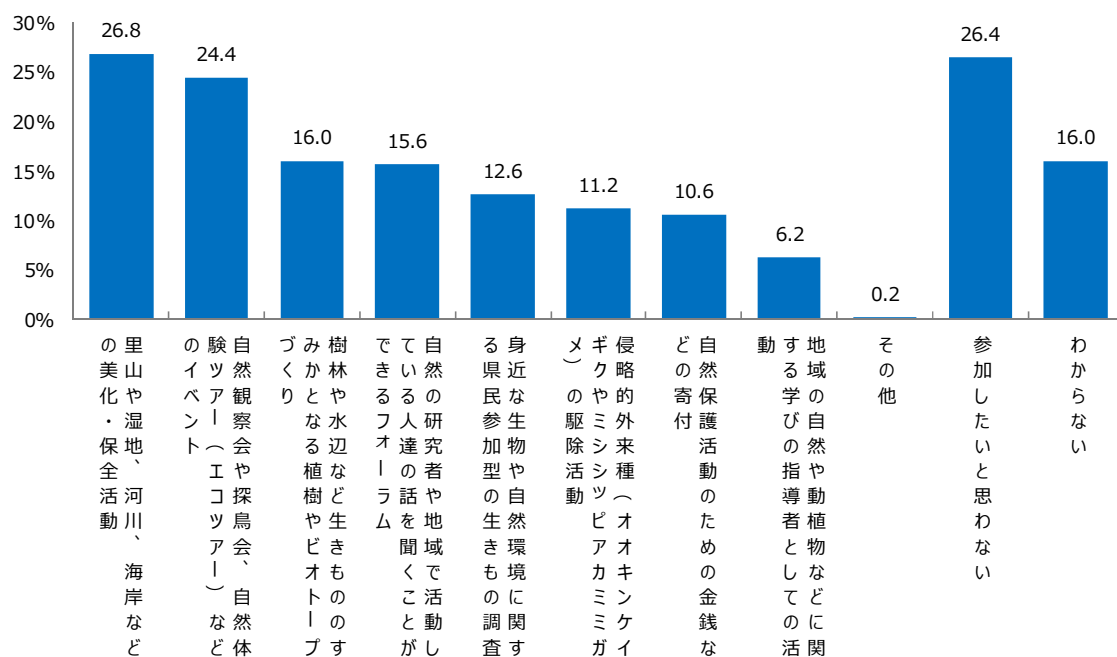
(4) 生物多様性保全に関する行動



生物多様性保全に関する行動について、「地元でとれたものを食べ、旬のものを味わう」が 46.8%と最も高く、続いて「エコラベルなどが付いた環境に優しい商品を選んで買う」(21.6%)、「余暇では、自然や生きものにふれる」(19.8%)の順となっている。

(5) 生物多様性保全への参加

Q 生物多様性の保全のため、県内各地で様々な活動が行われています。あなたは、どのような活動に参加したいと思いますか。(お答えはいくつでも)



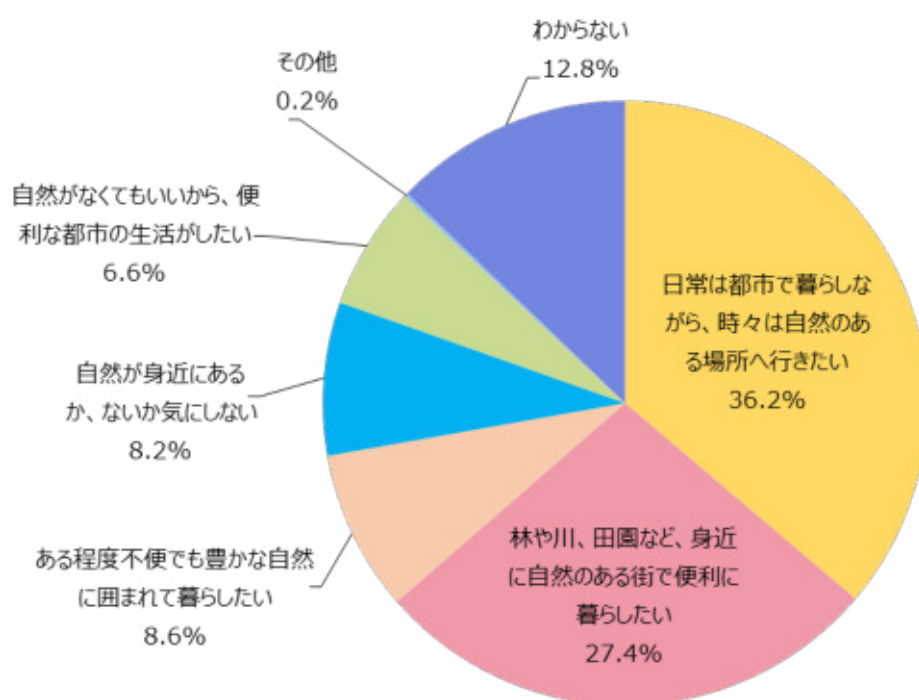
n=500

生物多様性保全への参加について、「里山や湿地、河川、海岸などの美化・保全活動」と答えた人の割合が26.8%と最も高く、続いて「自然観察会や探鳥会、自然体験ツアー（エコツアー）などのイベント」（24.4%）、「樹林や水辺など生きもののすみかとなる植樹やビオトープづくり」（16.0%）の順となっている。

一方で、「参加したいと思わない」と答えた人の割合は26.4%となっている。

(6) 自然との共生に対する考え方

Q あなたは将来、どのように自然と関わりながら生活していきたいとお考えですか。お気持ちに最もあてはまるものをお選びください。(お答えは1つ)

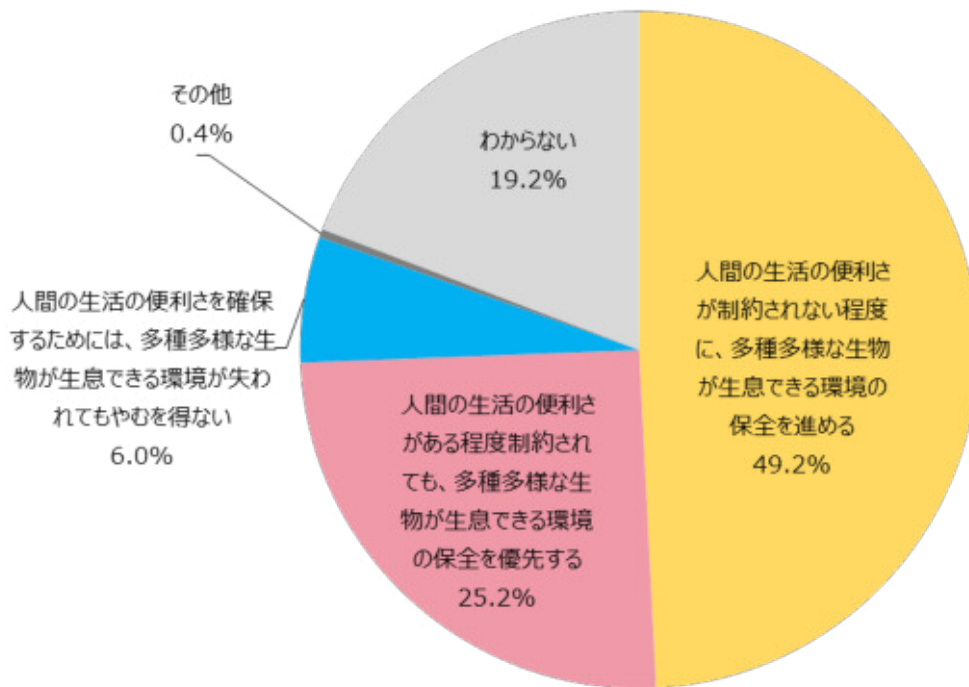


n=500

自然との共生に対する考え方について、「日常は都市で暮らしながら、時々は自然のある場所へ行きたい」と答えた人の割合が36.2%と最も高く、続いて「林や川、田園など、身近に自然のある街で便利に暮らしたい」(27.4%)、「ある程度不便でも豊かな自然に囲まれて暮らしたい」(8.6%)の順となっている。

(7) 自然環境保全に対する考え方

Q 人間の生活は、生物多様性から得られる自然の恵みに支えられています。あなたは、生物多様性を守る取組についてどのようにお考えですか。(お答えは1つ)

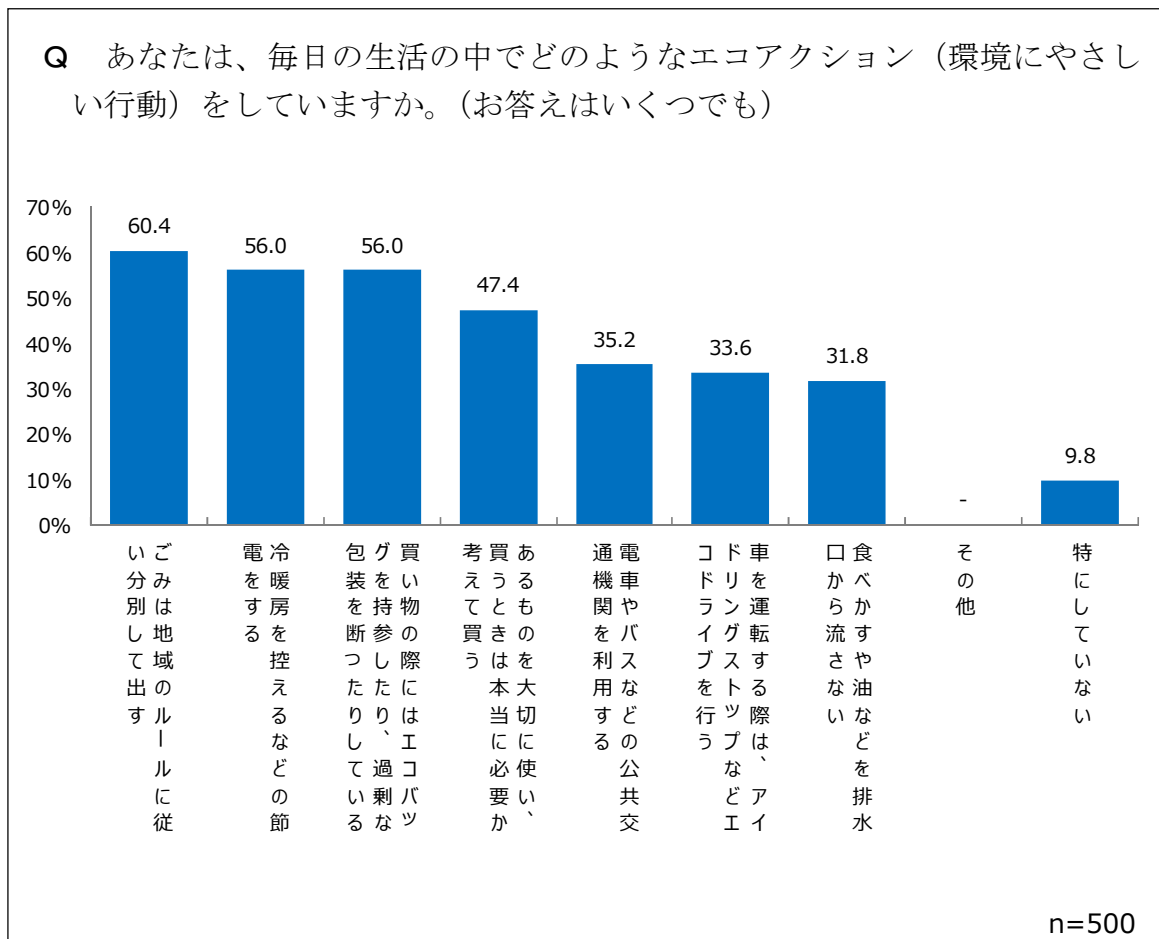


n=500

自然環境保全に対する考え方について、「人間の生活の便利さが制約されない程度に、多種多様な生物が生息できる環境の保全を進める」と答えた人の割合が 49.2%と最も高く、続いて「人間の生活の便利さがある程度制約されても、多種多様な生物が生息できる環境の保全を優先する」(25.2%)、「人間の生活の便利さを確保するためには、多種多様な生物が生息できる環境が失われてもやむを得ない」(6.0%)の順となっている。

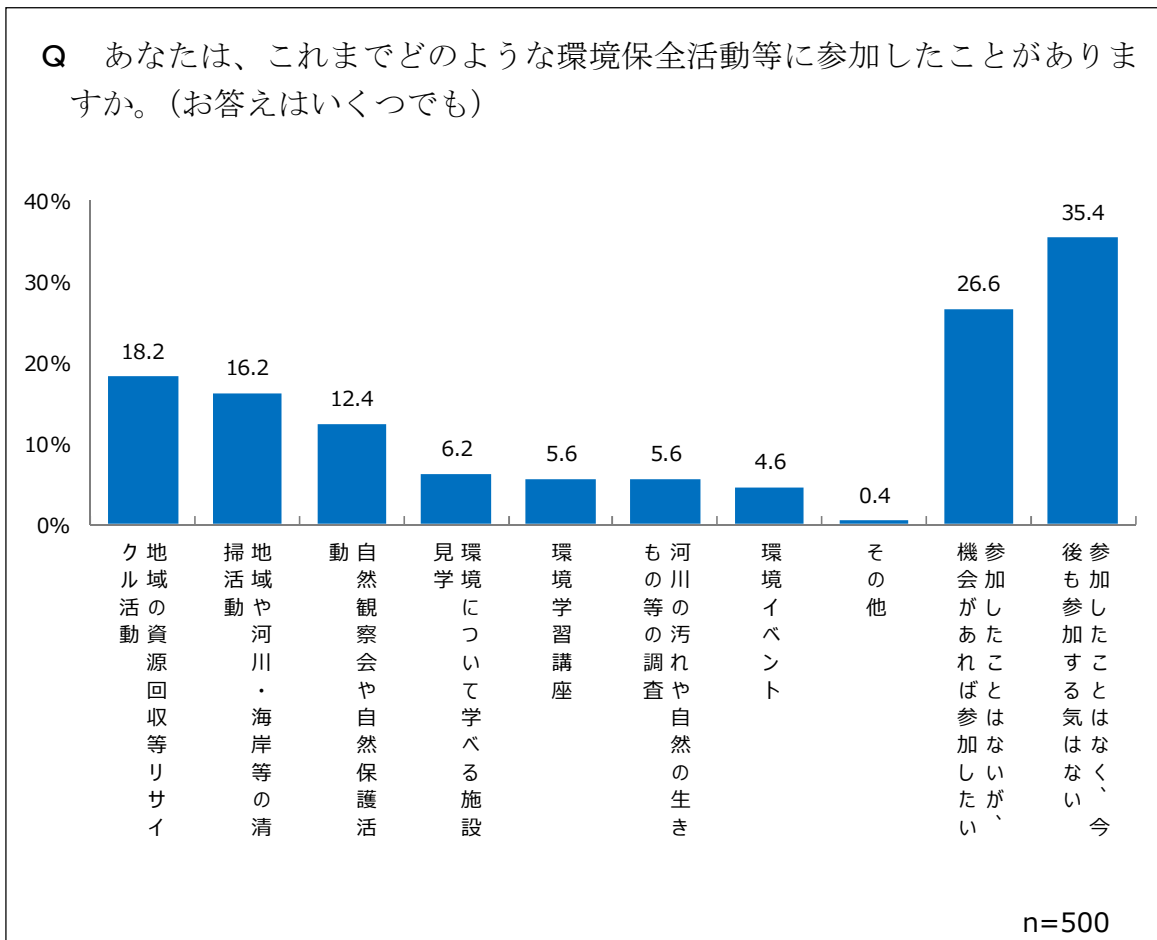
Ⅱ 環境配慮行動の実践について【調査結果】

(1) エコアクション(環境配慮行動)の取組状況



エコアクション(環境配慮行動)の取組状況について、「ごみは地域のルールに従い分別して出す」と答えた人の割合が 60.4%と最も高く、続いて「冷暖房を控えるなどの節電をする」(56.0%)、「買い物の際にはエコバッグを持参したり、過剰な包装を断ったりしている」(56.0%)の順となっている。

(2) 環境保全活動への参加状況



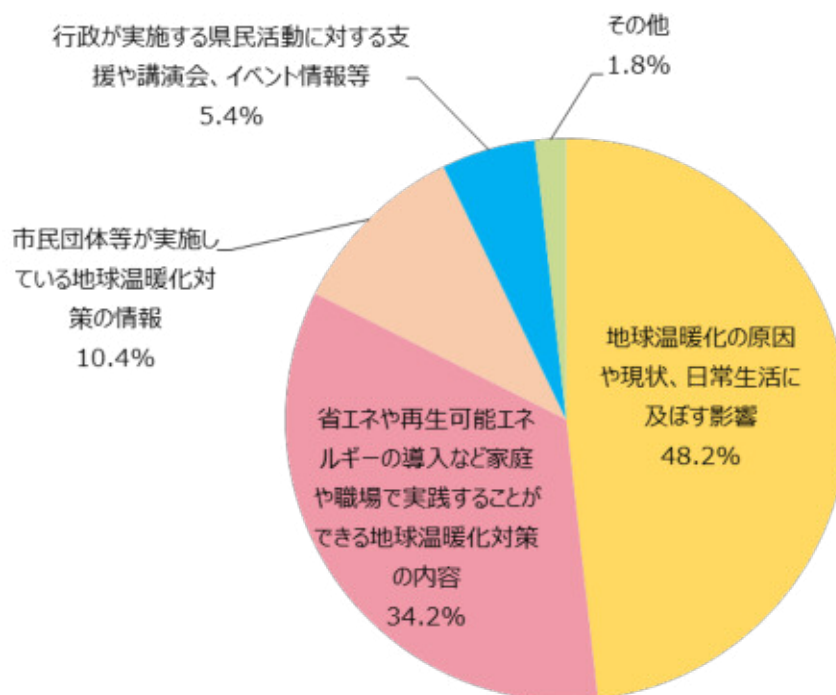
環境保全活動への参加状況について、「地域の資源回収等リサイクル活動」が18.2%と最も高く、続いて「地域や河川・海岸等の清掃活動」(16.2%)、「自然観察会や自然保護活動」(12.4%)の順となっている。

一方で、「参加したことはないが、機会があれば参加したい」と答えた人の割合は、26.6%、「参加したことはなく、今後も参加する気はない」と答えた人の割合は35.4%となっている。

Ⅲ 地球温暖化対策について【調査結果】

(1) 地球温暖化対策に必要な情報

Q 県民一人一人が地球温暖化対策に取り組むために、あなたが最も必要だと思う情報は何か。(お答えは1つ)

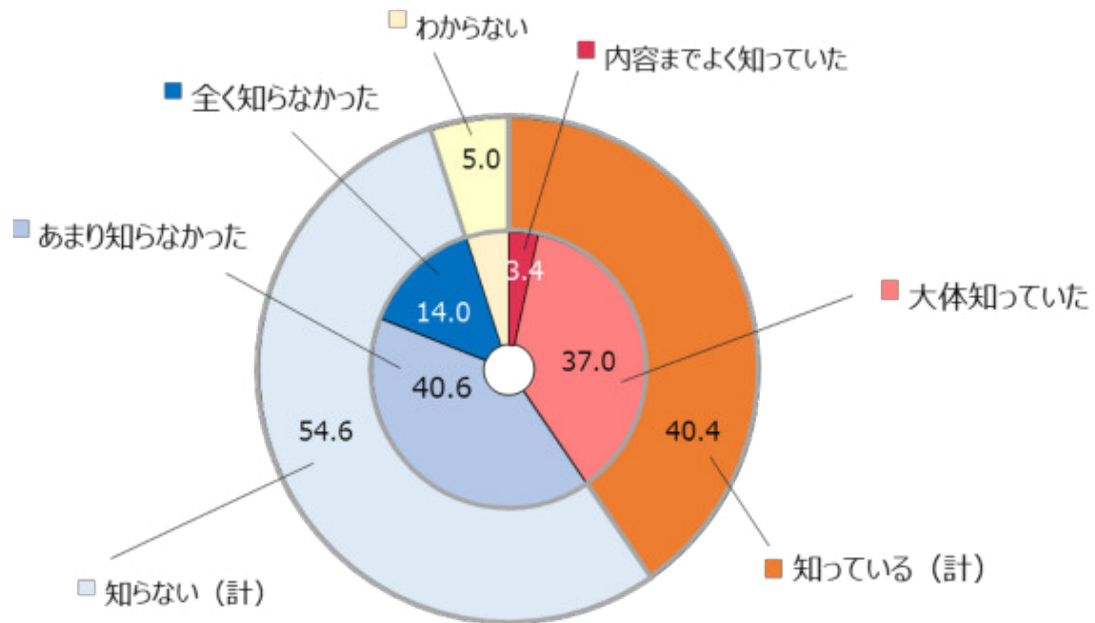


n=500

地球温暖化対策に必要な情報について、「地球温暖化の原因や現状、日常生活に及ぼす影響」と答えた人の割合が48.2%と最も高く、続いて「省エネや再生可能エネルギーの導入など家庭や職場で実践することができる地球温暖化対策の内容」(34.2%)、「市民団体等が実施している地球温暖化対策の情報」(10.4%)の順となっている。

(2) 気候変動適応への理解

Q あなたは地球温暖化等をもたらす「気候変動への適応」について、どのくらい知っていましたか。(お答えは1つ)



n=500

気候変動適応への理解について、「内容までよく知っていた」(3.4%)と「大体知っていた」(37.0%)を合わせた“知っている”と答えた人の割合が40.4%となっている。

一方で、「あまり知らなかった」(40.6%)と「全く知らなかった」(14.0%)を合わせた“知らない”と答えた人の割合は54.6%となっている。